

令和5年度「一市町村民会議一運動」活動紹介

岐阜市青少年育成市民会議

第3ブロック市民会議の取組を中心として

◆第3ブロック地域の特色

第3ブロックは、市中心部の金華・京町・明德・早田・本郷・徹明・木之本・本荘・白山・梅林・華陽の11地域で構成されている。岐阜市の玄関口である JR 岐阜駅と名鉄岐阜駅エリアでは、市街地再開発事業が始まっている。さらに、柳ヶ瀬グラスル 35 や金公園のセントラルパーク化なども進められている。

また、子育ての悩みや不安、孤立の解消に向けた総合的・継続的な支援と家庭や地域の子育て力・教育力の向上を図ることを目的に、岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」が設置されており、多くの子育て家庭の支援がなされている。一方で、中心部の少子高齢化が進み、小学校の統廃合などが行われたことや、自治会、PTA、子ども会といった任意団体への加入数が減少したり、役員決めに苦慮したりするといった現状も顕著になりつつある。

◆第3ブロック青少年育成市民会議の取組

「地域と学校が一体となり、小・中・高の段階を踏まえ、継続した健全育成に努める。」

1 小中高生と地域の人たちとのふれあい

第3ブロックの各都市市民会議では、小・中・高生の地域活動への参加を段階的に継続して行えるよう発達段階を考慮しながら青少年の健全育成に努めている。

どの段階でも共通して目指していることは、地域の様々なイベントや活動に参加し、地域の大人や世代を超えた様々な人たちとふれあうことを通して、地域で活動することの楽しさや地域の人たちとふれあうことの喜びを味わうことである。

(1) 各種地域イベント

〔小学生〕

魚つかみ大会では、小学生が夢中になって仲間と一緒に魚（鮎）を追いかけて、捕まえたときには、親などに満面の笑顔で高々と魚を掲げる姿があった。そうした子どもの姿に運営にあたる方々からも笑顔があふれ、温かい雰囲気がつくりだされていた。



【魚つかみ大会の様子】



【公園清掃の様子】

また、地域の大人や仲間と共に、ゴミ袋がいっぱいになるまで隈なくごみを拾う姿からは、自分たちの公園は自分たちできれいにしたいという思いが伝わってくる。美しくなった公園を見て自己有用感を味わっているようだった。

〔中学生〕

イベントや活動にボランティアとして主体的に参加することで、地域貢献の充実感を味わったり、地域の人たちと世代を超えて関わることの素晴らしさや大切さを体験できたりするようにしている。

ラジオ体操では、中学生が小学生や地域の人たちの前に立ち、率先してラジオ体操をリードする姿があった。指先まできちんと伸ばし、きびきびと体操する姿が頼もしく感じられた。



【ラジオ体操の様子】



【「子育て講座」の様子】

また、夏休み期間中に行われた

「子育て講座」では、ボランティ

アの中学生が幼児を相手に笑顔で語りかけながら一緒に遊びを楽しむ姿があった。運営者の人数確保

が難しい中、安心して任せられる存在となっている。参加した保護者の方も、笑顔で遊ぶ子どもの姿を見てとても喜んでいた。

〔高校生〕

活動の意味を理解して自分にできることを自分で考え、周囲と協力して行うことで、自己肯定感や社会参加意欲を高めることを大切にしている。

今年度は、第3ブロック地域内にある3つの高校から37名の参加があった。足早に前を通り過ぎようとする市民へはっきりとした口調で声をかけて啓発物品などを手渡す姿は、とてもさわやかで頼もしかった。

声をかけても必ずしも受け取ってもらえるわけではない。断られることも質問されることもあるが、活動の意味を理解し、自分で決めて参加したがゆえに、堂々とした立ち振る舞いであった。



【街頭啓発活動の様子】

2 金華山サポート事業

(活動の趣旨)

- ・登山道の損傷を修復する補修作業を行い、安心・安全な登山道作りに貢献する。
- ・岐阜市のシンボルである「金華山」への愛着を育てるとともに、継続的なボランティア活動への意欲を高め、社会貢献への喜びを味わわせる。

(作業内容)

育成者と協力しながら、登山道の谷側に丸太を敷き、杭並びに番線の締め付けによって固定する補修作業に取り組む。作業中は、育成者との語らいや登山者とのふれあいも自然に体験することができる。

(参加者の推移)

中学生は、学校の協力もあり毎回15名(定員)前後の参加があるが、高校生以上については、ほとんど参加者がいないというのが現状である。【登山道修復作業の様子】今後どのように増やしていくのかは大きな課題である。



(参加者の感想等)

- ・登山にきていた方から、「ありがとう」と声をかけられてうれしかった。
- ・杭を打ったり番線で縛ったりするのは、大変だけどやりがいがあるし、できあがったとき充実感があった。
- ・丸太を運ぶだけで十分かと思ったが、杭打ちから固定まであっという間にできてありがたかった。
- ・自然体験、社会貢献などにおいて、青少年の健全育成に寄与できるこの取組を、今後も継続・発展させていきたい。

3 フィナーレを迎えた50th「岐阜市青年バレーボール大会」



10月22日(日)、もえぎの里多目的体育館で、各ブロックから推薦された男女混合の8チーム(三輪・方県・西郷・市橋・加納西・柳津・芥見・長森南)が参加し、6人制ローカルルールで優勝を争った。予想を上回る白熱したゲーム展開に、多くの歓声やどよめきがあがっていた。一抹のさみしさは残るものの、最後を飾るにふさわしい大会となった。

次年度からは、青年対象のイベント事業を打ち切り、次代を担う人材の育成や発掘については、高校生以上を対象に「青年ボランティア人材バンク」を設けて、共に青年育成を進めていこうと考えている。さらに、人と人とのつながりを通して心温まる青少年育成を推進していきたい。